



福島県

## 近藤 賢さん(大堀)

取材者：認定特定非営利活動法人市民公益活動パートナーズ 古山・松田  
取材日：12月16日

### 大堀相馬焼の心は受け継ぎながら、この新しい場所で、新たな焼き物の潮流をつくりたい



▲作品の前で、にこやかに撮影に応じてくださいました

いわき市市街地から車で約15分。草野と四倉の間の海に程近い松林の中に、近藤さん親子の「陶吉郎窯」を擁する、ご自宅兼ギャラリーがあります。迎えてくださった賢さんに案内していただいたギャラリーは、お父様である学さんと、賢さんの作品が多数展示されており、その迫力に圧倒されました。

◆大堀に戻って半年後に、あの  
大災害に遭いました  
僕は、東日本大震災の前の年、平成22年9月に、それまで修行していた栃木県益子町から大堀に戻ってきました。妻や子供はまだ栃木県にいて、平成23年3月に大堀に越してくる予定になっていました。  
震災直後は、両親や弟と共に福島市の叔母の所に避難しました。栃木県にいた家族とは連絡が取れましたが、ガソリンがなくて、すぐに駆けつけることはできませんでした。  
平成23年5月には、父がいわき市植田に家を借り、工房と作品を販売する店も開きました。しかし、大堀に帰れるめどは一向につきず、自分たちの棲家となる所をいろいろ探しました。  
そして、ようやく見付かったのが、ゆったりとした敷地に囲まれたこの建物です。ここなら「登り窯」を作っても火の心配はないし、工房や住居などの増築も思い通りにできそうです。地元の設計士さんをお願い

したところ、本当に親身になって様々な注文に添えてくださいました。お陰さまで、訪れてくださる方々にも好評ですし、地元の人たちも喜んでくださっています。  
◆大堀相馬焼を継承しながら、  
作陶の新たな姿を創造したい  
大堀相馬焼の窯元は震災前には20数軒あり、その頃は父の世代がメインで、僕は同年代の作り手としては一番若いくらいなんです。震災後、窯元の数は約半分になってしまいました。避難先など各地で頑張っている人たちがいます。  
大堀相馬焼協同組合では、福島空港での展示会や浪江町内で開催する「大せとまつり」、そして、これから浪江にできる「道の駅」では展示販売や作陶だけでなく、一般の方向けのワークショップなども開催すると聞いていますが、大堀相馬焼の置かれた状況は厳しいと思っています。  
〇〇焼」というと大抵、産地の名前が付きますが、大堀には戻れないわけですから、本来ふるさとの名では作ることができないのかもしれない。けれども、作り続けている人のことや作品は見て欲しいですね。かつての大堀相馬焼は分業制で仕事をすることも多かったんですが、父も僕も全部イチから

自分で作っているものもあります。ですから、新しい大堀相馬焼というか、場所は違っても、何か未来につながるような作品を作りたいと思っています。  
◆子供たちにも、いつか大堀を見せたいですね  
僕は18歳まで大堀で育ちましたが、その記憶がどんどん薄らいでいるような気がします。行きたいときに自分の意思で訪れることができないうるさとは悲しいです。周りの人たちのつながりも失われてしまうと感じます。  
近い将来、大堀に避難指示解除が出たとしても、今の拠点も大事にしたいですね。震災の時に幼かった子は16歳になり、震災後に生まれた子は5歳です。ふるさとが元の姿に戻り、子供たちを連れて行けるようになることを願っています。



▲「日本で一番新しい“登り窯”かもしれませんよ」と、近藤さん



# 浪江のこころ通信

・第104号・

平成23年3月11日に発生した東日本大震災、そして福島第一原子力発電所の事故により、町内全域に出されていた避難指示は、平成29年3月31日に「帰還困難区域」を除き解除されましたが、多くの浪江町民は福島県内外に分散して避難生活を続けています。町を取り巻く状況が徐々に変化する中で、町民の皆さんがどのような思いで生活し、ふるさとへの思いを抱いているのか。

“浪江のこころプロジェクト”は、町民の皆さんの声を「浪江のこころ通信(※1)」を通してお届けし、皆さんの思いや暮らしびりを発信・共有しようとするものです。

一般社団法人東北圏地域づくりコンソーシアム(※2)が中心となり、全国各地のNPO、大学などの皆さんが取材を進め、浪江町と連携し「浪江のこころ通信」を編集・発行しています。

※1 浪江のこころ通信は、町民の皆さんがお話した「こころ」を伝えることを大切にすため、取材者が聞き取ってまとめた原稿をほぼ原文のまま掲載しています。

※2 一般社団法人東北圏地域づくりコンソーシアムは、大学、NPO、企業、経済団体、行政などが連携したコミュニティ支援ネットワーク。仙台が本拠地。

「浪江のこころ通信/第104号」への感想をお寄せください。

【連絡先】〒979-1592  
浪江町大字幾世橋字六反田7番地2  
「浪江のこころ通信」宛て  
FAX 0240 (34) 4593

